

ディプロマポリシー  
(卒業認定・学位授与の方針)

**D1**

仏教精神に基づく4つの力：

- ① 自分を客観的にとらえる力
- ② 目標に向かって継続し努力する力
- ③ 周りの人を思いやる力
- ④ 多様性を受け入れて協力する力

を身につけ、教育学領域の知識や技能と統合して活用することができる

**D2**

教育学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から知識構築や技能修得をし、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる：

- ① 教育学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している
- ② 教育学領域の深い知識構築や技能修得をしている
- ③ 社会（特に学校）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができる
- ④ 社会（特に学校）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができる

**D3**

社会（特に学校）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、教育学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子ども・人の発達成長に貢献することができる

**D4**

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身に付けた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、ともに成長することができる

学年の到達目標

**4年生**

- 大学での学びの集大成としての卒業論文執筆にあたり、研究テーマと具体的な研究計画を策定し、研究を遂行することができる
- 研究成果を卒業論文としてまとめ、質疑応答を含む研究発表を適切に行うことができる
- 教職に関する学びの軌跡を省察し、教師として、チーム学校の一員として必要な資質能力や指導技術を高める

**3年生**

- 学び続ける教員を目指し、その素地を自ら率先してつくることできる
- 今日の教育課題について、有意な問題を自ら設定し、問題解決に向けた取り組みができる
- 学習指導、学級経営、課外活動等に関する実践力を身につける
- 教職実践を客観的に捉え、課題を明確にするなど、自己評価を真摯に行うことができる
- 他者との協働を通じて、コミュニケーション能力の重要性を理解する

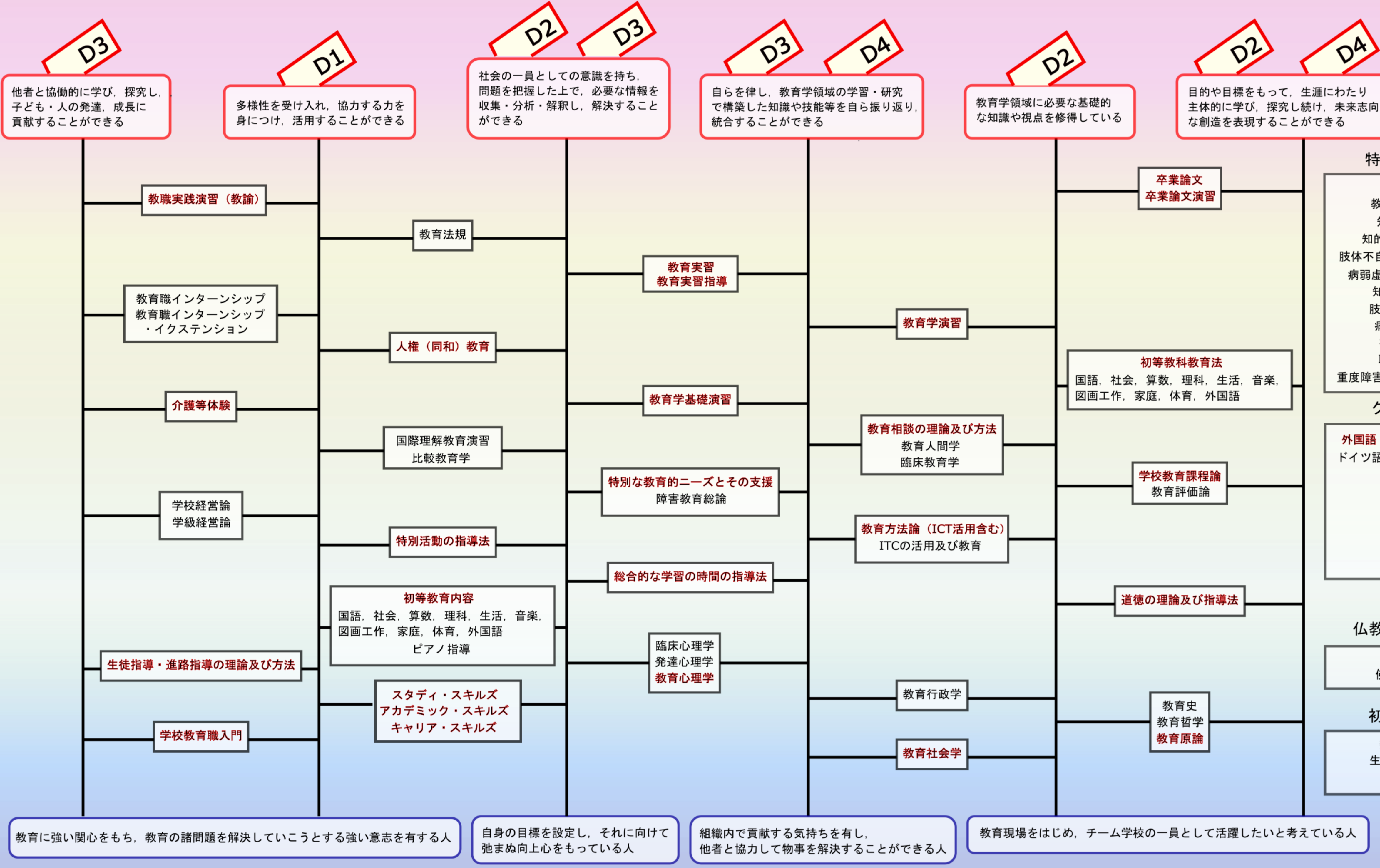
**2年生**

- 教育活動の意義、事例等に基づく具体的な取り組みを知り、さらに、家庭、地域社会との連携を含む、教科外指導についての今日的な課題を理解できる
- 児童の心身の発達や障害について理解し、個々に見合った支援、指導ができる
- 道徳科を含む各教科教育法をそれぞれ理解し、指導計画の作成や評価、カリキュラムマネージメントに関する知識・技能を身につけ、実践にむけた準備ができる
- 公教育に携わる教員として、コンプライアンスの意識を持った行動や対応をとることができる
- 世界の教育動向を理解し、日本型の教育との比較考察ができる

**1年生**

- 探究心を持った主体的な学びの重要性を理解し、文献検索、他者との議論、小論文執筆といった学びを支える技法を身につける
- 教職の意義と教員の職務について理解できる
- 教育の歴史、思想、哲学に関する基礎を学ぶとともに、現代社会における教育課題について理解できる
- 教育施策、また教育行政の構造を理解し、自身のキャリアの展望をもつことができる
- 各教科内容についてそれぞれ理解し、授業実践に確かなつながる教材研究ができる

アドミッションポリシー  
(入学者受入れの方針)



教育学科（小学校領域）のカリキュラムツリー



ディプロマポリシー  
(卒業認定・学位授与の方針)

**D1**

仏教精神に基づく4つの力：  
① 自分を客観的にとらえる力  
② 目標に向かって継続し努力する力  
③ 周りの人を思いやる力  
④ 多様性を受け入れて協力する力

を身につけ、教育学領域の知識や技能と統合して活用することができる

**D2**

教育学領域における原理的な理解に基づき、「理論と実践を往還」させて多様な視点から知識構築や技能修得をし、諸問題の解決と新たな創造に取り組むことができる：

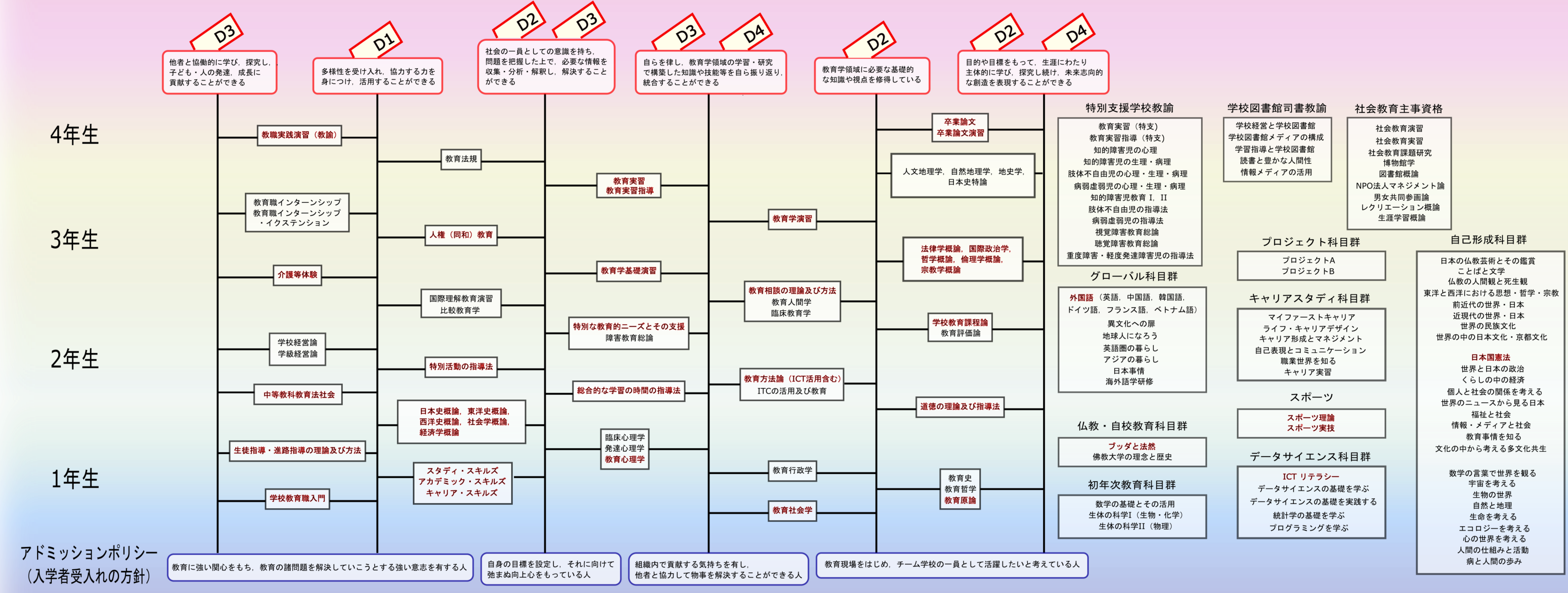
① 教育学領域に必要な基礎的な知識や視点を修得している  
② 教育学領域の深い知識構築や技能修得をしている  
③ 社会（特に学校）における問題を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、解決に向けて表現することができる  
④ 社会（特に学校）における状況を把握した上で、必要な情報を収集・分析・解釈し、未来志向的な創造に向けて表現することができる

**D3**

社会（特に学校）の一員としての意識を持ち、自らを律し、他者と協調・協働することで、教育学領域の学習・研究で構築した知識や技能等をもとに、子ども・人の発達成長に貢献することができる

**D4**

目的や目標をもって生涯にわたり主体的に学び探究し続け（学び続ける教員）、自らの振り返りによりそれまでの体験・実践・身に付けた多様な能力を統合することができる。あわせて、他者と協働的に学び探究し、ともに成長することができる



**学年の到達目標**

- 大学での学びの集大成としての卒業論文執筆にあたり、研究テーマと具体的な研究計画を策定し、研究を遂行することができる
- 研究成果を卒業論文としてまとめ、質疑応答を含む研究発表を適切に行うことができる
- 教職に関する学びの軌跡を省察し、教師として、チーム学校の一員として必要な資質能力や指導技術を高める

教育学科（中学校社会領域）のカリキュラムツリー